令和5年度

浦安市平和事業実施報告書

浦安市　市民経済部　地域振興課

－ 目　次 －

はじめに …… 1

1　平和学習青少年派遣事業 …… 2

2　小・中学校平和学習事業 …… 8

3　横断幕及び電光掲示板での啓発 …… 12

4　千羽鶴の献納 …… 13

5　原爆展 …… 14

6　子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト2023 …… 15

7　黙とうの呼びかけ …… 19

8　親子平和バスツアー …… 19

9　国際平和デー記念行事 …… 20

10　平和のつどい2023　～歌と平和をつなぐ～ …… 20

11　「平和への願い」カレンダーの作成 …… 22

資料編　平和学習青少年派遣事業派遣生感想文 …… 23

非核平和都市宣言 …… 43

はじめに

本市では、昭和60年３月29日に非核平和都市を宣言して以来、非核平和理念の市民への浸透と平和意識を高めることを目的に幅広い平和事業を行っています。

令和5年度は、平和学習青少年派遣事業において、本市として初めて、広島市に市内中学生18名を派遣しました。

また、7月下旬から8月末までの期間、市役所において被爆写真パネルや浦安の戦争写真、戦争関連の絵本などを展示する「原爆展」の開催や、9月から翌年2月にかけて、市内小中学校において、「被爆体験講話」や「非核平和パネル展」など様々な非核平和事業を実施しました。

今後も市民一人ひとりに平和の尊さを伝えていくため、工夫を施しながらできる限り様々な非核平和事業を実施してまいりますので、御協力をいただければ幸いです。

終わりに、本市の平和事業にご協力いただきました皆様に、御礼を申し上げます。

※浦安被爆者つくしの会

広島市又は長崎市の原爆被爆体験者（２世会員含む）などが平和諸活動に参加し、会員の健全なる親睦と友愛の絆を築いて発展していくことを目的として、平成５年に発足した団体。

会員の高齢化が進む中で、核の恐ろしさや平和の尊さを、青少年をはじめとする市民に対して継続的に伝え、市民の平和意識の高揚に貢献している。

特に市が推進する非核平和事業について深く認識し、平成 13 年度から毎年市と共に、自らの被爆体験を語る被爆体験講話を市内の小・中学校で実施している。

1　平和学習青少年派遣事業

■　実施内容

被爆の実相と平和の尊さを知り、戦争や核兵器のない平和な未来を築くことを目的に、市内中学生18名を広島市へ派遣しました。

広島市では、平和関連施設の見学やヒロシマ青少年平和の集い（全国から集まった青少年が、被爆の実相や平和の尊さを学び、交流と相互理解を深める）や平和記念式典等に参加しました。

■　スケジュール

区　分	日　程	内　容
第1回オリエンテーション	令和5年６月24日 午前８時30分～正午	自己紹介、事業概要説明、浦安被爆者つくしの会による平和学習、アイスブレイク、合唱練習
第2回オリエンテーション・結団式	令和5年７月27日 午前10時～午後５時	派遣スケジュール説明、グループワーク、千羽鶴作成、結団式（市長・教育長表敬訪問）、合唱練習
広島派遣	令和5年８月４日 ～8月７日	平和記念資料館・平和公園等見学、平和記念式典・ヒロシマ青少年平和の集いの参加等
報告会	令和5年9月２日	平和のつどい2023～歌と平和をつなぐ～

■派遣生（市内中学生18名）

学校名	氏名	学年	学校名	氏名	学年
浦安中学校	村上　結菜	３年	美浜中学校	和氣　友陽	２年
	森田　いずみ	３年		福富　慎吾	２年
堀江中学校	稲垣　桃	３年	日の出中学校	鹿島　奏	２年
	古川　雄規	３年		滝澤　良平	２年
見明川中学校	河本　清香	３年	明海中学校	石塚　幹人	２年
	山口　翠	３年		玉井　花乃	２年
入船中学校	熊川　りな	２年	高洲中学校	加藤　悠真	２年
	近藤　楓乃	２年		多田　大翔	２年
富岡中学校	小林　凜歩	２年	引率：地域振興課職員３名 看護師１名（広島市のみ）		
	牧野　裕之輔	２年			

■オリエンテーション

広島へ訪問する前に２回のオリエンテーション（事前学習）を行いました。浦安被爆者つくしの会による平和学習や、市長・教育長との結団式、9月2日の平和のつどいで行う合唱の練習などを実施しました。

◇第１回オリエンテーション

自己紹介

浦安被爆者つくしの会
による平和学習

合唱練習

◇第２回オリエンテーション

千羽鶴作成

結団式

合唱練習

派遣行程表

日程	時間	内容
８月４日 （1 日目）	8：50	新浦安駅前広場　集合・出発式
	9：20	新浦安駅発（電車で東京駅へ移動）
	9：45	東京駅着
	10：30	東京駅発（車内で昼食）
	14：27	広島駅着
	15：00	ホテルチェックイン　看護師合流
	16：00～17：00	被爆体験記朗読会の参加
	18：30～19：30	ホテルで夕食
	19：30～21：00	研修（合唱練習、平和のつどい準備等）
	22：00	就寝

行きの新幹線

被爆体験記朗読会

日程	時間	内容
8月5日 （2日目）	6：00	起床
	6：30	朝食
	7：25	ホテル出発
	8：30～10：20	平和記念資料館見学
	10：30～11：40	ピースボランティアの案内による平和記念公園内見学
	12：10～13：00	鷹野橋職員会館にて昼食
	13：30～16：45	ヒロシマ青少年平和の集い （広島市役所2階） 原爆被害の概要、被爆体験講話聴講、アイスブレイク・ディスカッション、感想発表等
	18：30～19：30	ホテルで夕食
	19：30～20：30	研修（合唱練習、平和のつどい準備等）
	21：30	就寝

ヒロシマ青少年平和の集い

平和記念資料館

日程	時間	内容
8月6日 （3日目）	5：15	起床・朝食
	6：15	ホテル出発
	8：00	平和記念式典参列（平和記念公園内）
	9：00	千羽鶴の献納（原爆の子の像にて）
	9：45～10：15	袋町小学校見学
	11：00	広島駅発
	11：40～12：40	呉阪急ホテルにて昼食
	12：50～14：30	大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）見学
	14：45	呉駅発
	17：00～18：00	夕食
	19：00～19：50	灯篭流し体験　@レストハウス前
	20：30	ホテル到着
	22：00	就寝

平和記念式典

大和ミュージアム

千羽鶴の献納

灯篭流し

日程	時間	内容
8月7日 （4日目）	7：30	起床
	8：00	朝食
	9：15	ホテル出発
	10：00～11：00	おりづるタワー見学
	11：40	ホテル到着　荷物引き取り ※看護師解散
	12：43	広島駅発
	16：33	東京駅着（電車で新浦安駅へ移動）
	17：30	新浦安駅前広場到着・解散

おりづるタワー

2　小・中学校平和学習事業

■実施内容

次第に風化していく原爆・戦争の記憶を今にとどめ、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さを若い世代に伝えるため、小・中学生に対し、「被爆体験講話等」及び「非核平和パネルの展示」を実施しました。

「被爆体験講話等」では、浦安被爆者つくしの会による講話や朗読劇、または、DVDの視聴により実施しました。

DVD の内容は、①浦安市の非核平和事業の紹介　②浦安被爆者つくしの会による被爆体験講話　③浦安市平和使節団 OB・OG による平和メッセージです。

■実施校

・被爆体験講話等　　26 校/26 校中　学習人数　2,346 人
・非核平和パネルの展示　25 校/26 校中

小学校（令和 5 年度）

No.	学校名	被爆体験講話			非核平和パネル
		方法	学年	学習人数	展示期間
1	浦安小学校	ＤＶＤ	6	43	9 月 19 日～22 日
2	南小学校	つくしの会	6	160	1 月 12 日～19 日
3	北部小学校	つくしの会	6	116	1 月 16 日～23 日
4	見明川小学校	つくしの会	6	83	12 月 11 日～15 日
5	富岡小学校	つくしの会	6	47	1 月 29 日～2 月 2 日
6	美浜南小学校	つくしの会	6	38	11 月 13 日～17 日
7	東小学校	つくしの会	6	99	1 月 11 日～18 日
8	舞浜小学校	つくしの会	6	98	1 月 29 日～2 月 2 日
9	美浜北小学校	つくしの会	6	27	1 月 22 日～26 日
10	日の出小学校	つくしの会	6	64	2 月 5 日～9 日
11	明海小学校	ＤＶＤ	6	46	9 月 11 日～15 日
12	高洲小学校	つくしの会	6	70	12 月 18 日～21 日
13	日の出南小学校	つくしの会	6	60	1 月 29 日～2 月 2 日

No.	学校名	被爆体験講話			非核平和パネル
		方法	学年	学習人数	展示期間
14	明海南小学校	つくしの会	6	49	9 月 5 日～8 日
15	高洲北小学校	ＤＶＤ	6	64	1 月 22 日～26 日
16	東野小学校	つくしの会	6	94	12 月 4 日～8 日
17	入船小学校	ＤＶＤ	6	65	2 月 5 日～9 日
合計				1,223	

中学校（令和 5 年度）

No.	学校名	被爆体験講話			非核平和パネル
		方法	学年	学習人数	展示期間
1	浦安中学校	ＤＶＤ	3	193	10 月 2 日～6 日
2	堀江中学校	ＤＶＤ	2	226	10 月 16 日～20 日
3	見明川中学校	ＤＶＤ	2	89	12 月 4 日～8 日
4	入船中学校	ＤＶＤ	2	68	10 月 3 日～6 日
5	富岡中学校	ＤＶＤ	1	122	9 月 12 日～15 日
6	美浜中学校	ＤＶＤ	3	75	実施なし
7	日の出中学校	ＤＶＤ	3	120	9 月 25 日～29 日
8	明海中学校	ＤＶＤ	2	56	10 月 23 日～27 日
9	高洲中学校	ＤＶＤ	3	174	10 月 16 日～11 月 10 日
合計				1,123	

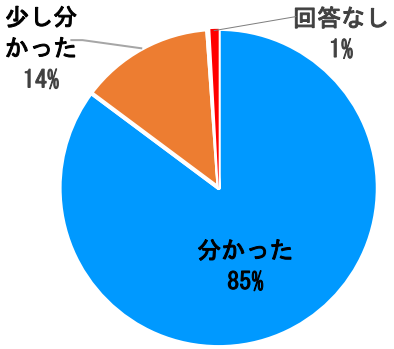
浦安被爆者つくしの会　朗読劇の様子

DVD の映像

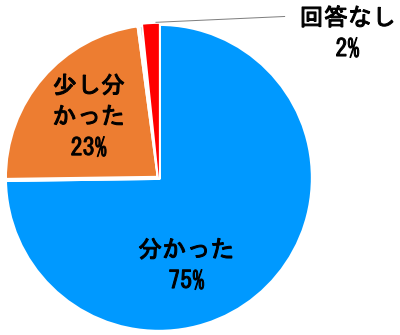
■被爆体験講話アンケート結果

1.今日のお話の内容は分かりましたか。

【つくしの会】

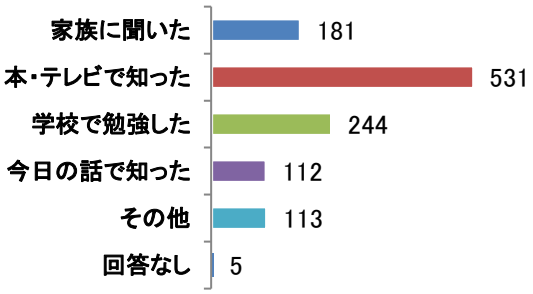


【DVD】

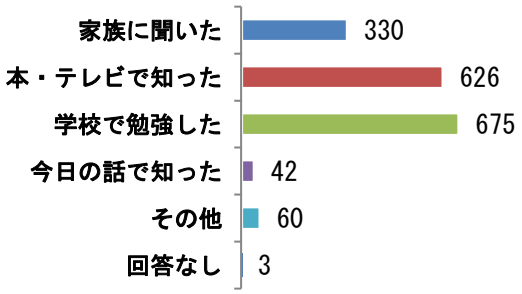


2．広島、長崎に原爆が投下されたことをどのようにして知りましたか？（複数回答可）

【つくしの会】

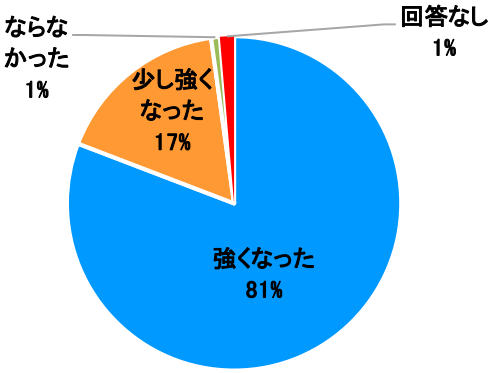


【DVD】

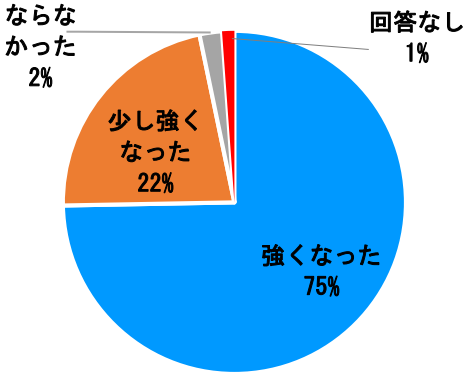


3．お話を聞いて、「平和にしたい」という思いが強くなりましたか？

【つくしの会】



【DVD】



４．戦争をなくすためには、他の解決方法が必要です。次の□には、何が入ると思いますか？みなさんの身のまわりでおきる、ケンカや暴力におきかえて考えてみましょう。

「暴力（ぼうりょく）」では、何（なに）も解決（かいけつ）しません。暴力（ぼうりょく）ではなく、［　　］で解決（かいけつ）しましょう。

話し合い、コミュニケーション、冷静な頭、条約、条件、思いやり、
お互いに相手の話をきく　など

5.平和のためにあなたができること、お話を聞いて思ったことなど、自由に書いてください。

【対面式】

・つくしの会の人たちが話していた、「人を殺すのも、平和を築くのも私たち人間」という言葉は本当にその通りだなと思った。理由は、人を殺している人も、戦争をやめようと訴えている人も同じ人間だからである。戦争は人が起こしているから自然の力ではどうにもならないものなので戦争をやめることが私たち人間の一番の課題なんだと気づいた。あと、今でも戦争をしている国がたくさんあることを知って平和の大切さ、そして尊さに気づいた。

・今から何かをして、その人達のためになるかはわからないが、自分達ができる最低限の行動はみなさんが私達にしてくれたように新しい世代へ、語り伝えることだと思った。

・戦争はだめだと思っていたけど、話をきいて、なぜだめなのか、どんな被害があるのかをきちんと知ることができてよかった。今の地球には核兵器があるけれど、核兵器をもっている国が少しでも減るといいなと思った。

【DVD】

・話を聞いたり、絵を見たりして、全部ではないけど原爆というものが広島、長崎にどれだけの被害を与えていたのかを改めて知ることができた。
文化などが違くても、互いに理解しようとすることが大切だなと思った。

・普通の街が一瞬にしてあんな風に何もなくなるのが衝撃だった。今こうやって好きな物を食べたり、学校に行けるのはとても幸せなことなんだなと思った。武力でなく、言葉で解決することができなかったから、こんなことが起きてしまったのかなと思った。

3　横断幕及び電光掲示板での啓発

■実施内容

「核兵器のない平和な世界を」と記した横断幕を浦安駅前歩道橋、新浦安駅北口歩道橋、舞浜駅北口歩道橋に掲出しました。また、市役所電光掲示板においても啓発しました。

■期間

横断幕・電光掲示板：令和5年７月12日～９月13日

■場所

・横断幕：浦安駅前歩道橋、新浦安駅北口歩道橋、舞浜駅北口歩道橋
・電光掲示板：浦安市役所

浦安駅前

電光掲示板

新浦安駅前

舞浜駅前

4　千羽鶴の献納

■実施内容

市民より、平和の千羽鶴を募集し、広島市・長崎市へ献納しました。

■募集期間

令和5年６月15日～７月14日

■献納数

73,850羽

広島に献納した千羽鶴

長崎に献納した千羽鶴

5　原爆展

■開催内容

原爆の悲惨さ等を伝えることを目的に、被爆写真の展示や原爆に関する原爆に関する絵本コーナー等を設置しました。

また、一部の期間において、浦安被爆者つくしの会の協力のもと、来場された市民に対し、展示物等の説明をしました。

■開催期間・時間

令和5年７月20日～８月31日（土曜日及び祝日を除く）

午前８時30分～午後５時

■開催場所

市役所１階市民ホール

■展示内容

- 平和と学びポスター（低学年・高学年用）
- 原爆被害の概要、広島市・長崎市の被爆後の惨状写真
- 基町高校の生徒と被爆体験証言との共同制作による「原爆の絵」
- 第五福竜丸被爆写真パネル
- 浦安と戦争パネル
- 今、ウクライナで起きていることパネル
- 「平和への願い　みんなに届け！」カレンダー
- 原爆に関する絵本
- アンケート・クイズ
- 「平和の木」メッセージボード

原爆展の様子

6 子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト 2023

■実施内容

市内の小・中学生を対象に、「私にとっての平和」をテーマとした絵画を募集しました。

令和 5 年度は、これまでで一番多い 228 作品（令和 4 年度 162 作品）の応募がありました。

応募いただいた全作品は、市役所市民ホールで展示したほか、市公式ホームページにおいても掲載しました。

また、受賞作品は、平和事業の啓発イベント等で配布する啓発グッズや小・中学校で配布する平和カレンダーに印刷して活用しています。

応募資格：令和 5 年 11 月 1 日時点で 6 歳以上 15 歳以下の浦安市民

■実施期間

募集期間：令和 5 年 8 月 1 日～9 月 29 日

展示期間：令和 6 年 1 月 16 日～1 月 31 日

展示会の様子

表彰式の様子

受賞作品　※年齢は令和５年 11 月１日時点

【浦安市受賞作品】

最優秀賞（市長賞）　渡部（わたなべ）　眞子（まこ）　さん（９歳）

【作者のメッセージ】

『自然への感しゃの気持ちをわすれずに、自然を大切にして、安心してえ顔ですごせるまち』

浦安市にはたくさんのさくらが植えられていて、春になると色んなところできれいにさきます。みんながうれしそうな顔で花見をしているすがたや、毎年きれいにさくさくらをみていると、平和で幸せだなと思います。これからもこの平和できれいなけしきがずっと続くように守っていきたいです。

優秀賞　田村（たむら）　奏絵（かなえ）　さん（13 歳）

【作者のメッセージ】

私が思う「平和」は、子どもたちが安心して遊べる世界です。なので私は子どもが平和のシャボン玉をふいている絵を描きました!!

優秀賞　ライト クレア 愛鈴（あいりん） さん（10 歳）

コロナの混乱が落ちついて世界の人々が沢山の国へ行きやすくなりました。浦安に住んでいる私は、笑顔で楽しそうに歩いている人々を最近多くみかけます。浦安の街は平和で安全で、人々を笑顔にする街だとあらためて感じたので、その気持ちをパズルの絵で表しました。

世界は戦争や貧困で困っている地域が沢山あります。浦安の街の様に平和で安全な一つ一つのパズルのピースが世界中につながることをいのっています。

入賞　田中（たなか）　健人（けんと）　さん（８歳）

ゆう日が見れて、花見れて、空が見れて
それは平和のおかげ。

入賞　渡辺（わたなべ）　葵（あおい）　さん（10 歳）

【作者のメッセージ】

私には大きくなったら、なりたいものや、やってみたいことがたくさんあります。明るい未来を想ぞうしたり、楽しいゆめを持てるのは今が平和で幸せだからなんだと思います。地球に住むみんながワクワクするようなすてきな未来を描きながら毎日すごせますように。とねがって地球型のガムボールマシンにみんなのゆめをつめこんだ絵をかきました。

入賞　服部（はっとり）　柊穂（しほ）　さん（12 歳）

【作者のメッセージ】

平和なまちは、世界全体も平和でいてこそみんなが平和になれるから、地球をかいた。そして、幸せな時は、心の中で幸せの花がたくさん咲いて世界が広くなるイメージだから、世界もそうなってほしくて、地球にもかいた。自分の中で花が咲いていたり、空がきれいだったり、地球が星で輝いているのが幸せな気分になるのでそれ自体が平和な事なのかもと思ってかいた。他の身近な幸せといえば、家族と写真をとる時ピースをして笑顔でとるしゅんかんだったので、ピースもかいた。今、幸せなことは平和だと思った。

自分たちが今、勉強したり、遊んだり、学校に行ける事自体が平和だと思ったから、身近なものを詰めこんだ、平和な世界をかいた。（まち）

【平和首長会議受賞作品】

平和首長会議 提供

6 歳～10 歳の部　優秀賞

寺田（てらだ）　紗和（さわ）さん（10 歳）

【作者のメッセージ】

日本の子どもたちだけでなく、外国の子どもやウクライナのせんそうでくるしんでいる子どもたちもみんななかよく楽しくあそんでほしいなと思いながらかきました。

平和首長会議 提供

11 歳～15 歳の部　入選

直井（なおい）　駿介（しゅんすけ）さん（14 歳）

【作者のメッセージ】

地球上で初めて陸に進出したのは昆虫だ。そこから様々な生き物が誕生し、現在の人間へとつながっているが今、人間の進出によって自然破壊や環境汚染が止まらない。平和なくらしやまちをつくるには、まず、人間に恵みをもたらしてくれる自然や生き物を守っていくことが必要だと思った。この作品は、平和の花を中心に、地球上の全ての生き物が美しい自然の中で互いを尊重し、人間と共存していく世界をイメージした。

※平和首長会議とは、広島・長崎両市が提唱した「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」の趣旨に賛同する世界各国の都市で構成された組織です。世界 166 か国・地域の 8,200 を超える全加盟都市の 6 歳以上 15 歳以下の子どもたちを対象に、令和 5 年度は“私にとっての平和”をテーマにした絵画コンテストを実施し、本市上位作品を応募したところ、2 作品が受賞しました。

7　黙とうの呼びかけ

原爆死没者のめい福と核兵器の廃絶を願い、広島市・長崎市の原爆投下日における黙とうの実施について、広報うらやす（８月１日号）や、市公式X（エックス）、市役所電光掲示板・庁内放送において、呼びかけを行いました。

8　親子平和バスツアー

■実施内容

昭和29年３月１日、太平洋のマーシャル諸島にあるビキニ環礁で、アメリカが行った水爆実験によって被害を受けた木造のマグロ漁船やその付属品、関係資料を展示している「東京都立第五福竜丸展示館」を見学しました。

また、戦中・戦後の人々の暮らしを実物展示した「昭和館」を見学しました。

移動中のバスの中では、浦安被爆者つくしの会から被爆体験のお話をしていただきました。

■実施日時

令和５年8月22日　午後０時30分～午後５時

■見学先

・東京都立第五福竜丸展示館(東京都江東区)
・昭和館(東京都千代田区)

■参加者数

４組８名（保護者４名、子ども４名）

9　国際平和デー記念行事

■実施内容

「国際平和デー」とは、世界の停戦と非暴力の日として国連が定めた、平和の記念日（毎年９月 21 日）です。本市においても、記念行事に賛同し、令和２年度から実施しています。

本市では、９月 21 日の午後０時 30 分頃に、市内にある大蓮寺や協力ホテル、学校、大型商業施設において平和の鐘を鳴らしたりするなど、市民の方に平和について考えていただくよう呼びかけました。

10　平和のつどい 2023　～歌と平和をつなぐ～

■開催内容

過去の戦争のことや、今世界で起こっていることを知り、平和のために何ができるか考えてもらうために開催しました。

■開催日時

令和５年９月２日　午後１時30分～４時

■開催場所

浦安市民プラザWave101　多目的大ホール

■来場者数

109人

【プログラム】

第１部　令和５年度平和学習青少年派遣事業報告会

令和５年８月４日～７日に浦安市の青少年を代表として、広島に派遣した浦安市平和使節団により、派遣事業を通して学習したこと等を報告しました。

【出演】浦安市平和使節団　10 名

第２部　被爆体験伝承講話

広島市から招へいした伝承者に講話していただきました。また、講話後は、平和使節団より伝承者に向けて質問を行いました。

【出演】被爆体験伝承者　垰 朱美氏、浦安市平和使節団　３名

第３部　合唱

【曲】浦安市民の歌、千羽鶴、HEIWA の鐘

【出演】いるか合唱団（30 名程度）、浦安市平和使節団 18 名

第４部　朗読劇

浦安被爆者つくしの会の活動で行っている朗読劇を、浦安市平和使節団により披露しました。

【出演】浦安市平和使節団　５名

第１部 平和学習青少年派遣事業報告会

第２部　被爆体験伝承講話

第３部 合唱

第４部 朗読劇

11　「平和への願い」カレンダーの作成

「子どもたちによる”平和なまち”絵画コンテスト2023」の受賞作品を掲載した年度カレンダーを作成し、市内小・中学校、高等学校、大学、公民館等へ配布しました。

■発行部数

600部（B2サイズ）

資料編

▉平和学習青少年派遣事業派遣生　感想文

浦安中学校　３年　　村上（むらかみ）　結菜（ゆいな）

「あの日の出来事」

私は８月４日から７日にかけて浦安市平和使節団として広島県を訪問しました。今回の派遣事業では、平和記念資料館や原爆ドームなどを周りながら原爆について学びました。

参加する前までの私は戦争とは遠く離れた存在だと思っていました。原爆についてもよく知らず、私にとって普通の爆弾と同じ、ただ怖い兵器という認識でした。ですが沢山の人のお話を聞き、戦争・原爆に対する気持ちや考え方が変わりました。

今回の派遣授業で印象に残っていることは二つあります。

一つ目は原子爆弾の威力です。たった一発の原子爆弾が地上から600メートルの高さで爆発し、3000度から4000度もの高温と放射線を放ちながら町を一瞬で焼き尽くしました。それによって火傷で皮膚が垂れ下がり、水を求めて川に飛び込んでいく人のお話や、詩なども聞きました。私が一番印象に残った詩は「げんしばくだんがおちると　ひるがよるになり　人がおばけになる」という詩です。短い詩の中にあの日についてはっきりと書かれていることに驚き、同時に悲惨な光景を想像するだけでとても胸が締め付けられました。

二つ目は平和記念資料館です。時間が止まった時計、焼けた背中の写真や服、三輪車などの遺品などが展示されていました。展示物の鑑賞を終え、戻る途中に対話ノートという自由に感想を書けるノートを見つけました。そのノートには日本人だけではなく海外の方も感想を残していました。「世界が平和になりますように」「戦争が無くなりますように」「日々のありがたさを感じた」など感想や願いが残されていました。このノートを見て、戦争に対する気持ちは世界共通で世界中の人々が平和を願っているものだと思いました。

私は今回の派遣事業で原子爆弾の怖さだけでなく、それを通して平和や命の尊さ、今の生活のありがたさなど沢山のことを学びました。また、参加するまで特に深く考えようとせず、私が何かをして少しでも力になれるのかと思っていました。ですが今回、皆が力を合わせていけば未来は変えられて平和はいつか実現できると気持ちを改めることが出来ました。もう二度と戦争によって大切なものを失う、生きるのが辛いなどと思う人が無くなることを願います。またこの出来事を後世に知ってもらい、これ以上被爆者を出さないためにも語り継いでいこうと思います。

浦安中学校　３年　　森田（もりた）　いずみ

「平和の尊さ」

私は、平和使節団として広島に行き多くのことを学べました。派遣する前も家族や学校で戦争や原爆のことを教えてもらっていましたが、実際に広島に行ったことで戦争の恐ろしさや平和の尊さについて改めて考えることが出来ました。こんな貴重な体験をできた広島派遣の活動で特に印象に残っていることが3つあります。

1つ目は2日目に見学した平和記念資料館です。資料館には原爆や戦争を伝えるための資料がたくさんありました。原子爆弾による被害や被爆した当時の様子がとてもよくわかりました。たった1発の原子爆弾によって多くの人の命や当たり前の日常が一瞬にして壊されてしまったんだなと思い胸が締め付けられました。

2つ目は、3日目に見学した袋町小学校です。袋町小学校は原爆によって壊されてしまった校舎のうち、唯一残った西校舎を平和資料館として原爆の恐ろしさを伝えてくれている建物です。袋町小学校にもたくさんの展示品がありました。小学校という子供を育てるための場所が戦争によって避難所となってしまったというのが今ではとても考えられないと思ったし、そんなことは二度と起こって欲しくないと思いました。

3つ目は、2日目に参加した「ヒロシマ青少年平和の集い」です。平和の集いでは被爆体験講話を聞いたり、全国から集まった平和使節団で「あなたにとって平和とは」と「なぜ核兵器はあるのか」というテーマについて話し合いました。他の使節団の子と話し合うことで、私には思いつかなかった考えが沢山出て新たな気付きを得ることが出来ました。現在、被爆者の平均年齢が85歳をこえ、原爆のことを知っている人が少なくなってきています。だからこそ次代を担う私たちが少しでも多くに人に戦争のことを伝えていくことが大切だと思いました。

”今ある当たり前を永遠にーー"

堀江中学校　３年　　稲垣（いながき）　桃（もも）

「過ちを繰り返さないために伝えていきたい」

私たちは８月４日～7 日に平和学習青少年派遣事業に参加し被爆地である広島県へ訪問しました。

私はそこで、被爆者の体験講話や平和記念資料館、平和記念公園などに行きました。

原爆は 1945 年 8 月 6 日月曜日のよく晴れていた朝の午前 8 時 15 分に広島へ投下されました。投下されると目も眩む閃光を放って 1 秒後に爆心地周辺の地表面の温度は 3,000～4,000 度にも達しました。想像しにくい温度ですが、鉄の溶ける温度が約 1,500 度なのでその 2 倍以上の熱さです。強烈な熱線と放射線が四方へ放射され爆風が伴いました。その被害により死者数が約 14 万人と大勢の方が亡くなられました。

何の前ぶれもなく突如として落とされた原子爆弾。たった一つの爆弾だけで、幸せだった、普通の当たり前の日常を破壊し、多くの人の未来と夢や希望、幸せをあっという間に奪ったのです。

平和記念資料館では、原爆の被害を表した模型や絵がありました。そこにはどれも悲惨で、思わず目を背けたくなるようなものもありました。その中でも私が 1 番印象に残ったのは、中学生の真っ黒に焼け焦げたお弁当でした。このお弁当は「滋さん」という中学生の物です。お弁当を楽しみに出かけましたが、食べることができず被爆し亡くなってしまいました。私はそれを見て、私達と同じ中学生や小さな子供から大人までも影響を及ぼしてしまう原爆の恐ろしさを身に染みて実感しました。

実際に、被爆を体験された方のお話を伺いました。その方は、『幸せだった日常が一瞬で壊れた』とおっしゃっていました。その話の中で 1 番心に残ったのが、『被爆した父の帰って来た姿が、黒く焼けていて恐ろしかった』と話されていたことでした。その時の気持ちを想像すると、私は何とも言えない感情が胸に広がって、胸がキュッーと締め付けられ、涙が溢れそうになりました。原爆は投下されるその瞬間まであった、普通の幸せをあっという間に奪ってしまうのです。

私が思う平和とは、戦争がなく、世界中の人が笑顔で幸せに当たり前の日常を送れることです。そのためには、戦争や核兵器などの武器はどんなに悲惨なもので、悲しみや苦しみしか生まないと知ること、一つしかない命の尊さを改めて考え直すこと、世界中の人が戦争反対を呼びかけることが大事だと思います。また、過ちを繰り返さないためにも私はこのことを伝えていきたいと思いました。

堀江中学校　３年　　古川（ふるかわ）　雄規（ゆうき）

「広島派遣を通して肌で見て感じたこと」

僕は今回広島派遣で、沢山の思い出や学びがありました。

まず、最初に印象に残ったのは、平和記念資料館です。そこでは、原爆の悲惨さを物語っている写真や現物品などがあり、想像以上の衝撃を受けました。自分自身は、広島に行くまでは原爆ということを、本気で考えたことはありませんでした。しかし、今回の派遣で、原爆の恐ろしさを身に染みて感じました。それだけではなく、今後もそれを後世の人に伝え、原爆はあってはならないということを、決して忘れないと思いました。

次に、印象に残ったのは、原爆ドームです。原爆ドームというのは、聞いたことがあると思います。僕も広島派遣の前から知っていました。

しかし、原爆ドームを最初に見た時に、僕は鳥肌が立ちました。こんなにも、原爆は恐ろしいものなのかと思いました。そして、よくぞ原爆ドームが残ってくれたなと思いました。原爆ドームは、原爆投下を忘れさせない建物だと思いました。

最後は、灯籠流しです。灯籠流しでは、亡くなった方への想いを込めて流しました。多くの人々が灯籠流しを行っていて、よかったと思いました。なぜなら、まだ、原爆投下という悲惨な出来事を忘れていないと思うと、ホッとしました。

他にも、派遣生とのお話や交流も、ものすごく楽しかったし、争うことの無意味さと、一緒に平和の有難さを味わえ、良い思い出の一つでもあります。

これからは、このような悲惨な出来事を、後世に絶えずに伝えていくことで、世界が平和な世の中になると思います。

そのためにも、まずは、身近な人からこの出来事を伝えていくことが、僕たち派遣生のやるべきことだと、思いました。

見明川中学校　３年　　河本（かわもと）　清香（さやか）

「改めて問う平和とは」

私は今年の夏、浦安市平和使節団として広島を訪問しました。ロシアによるウクライナ侵攻により核抑止論が失当であるとわかった今、人類がすべきことは核兵器廃絶と平和の尊重であると思ったからです。その中で抱いたある疑問があります。派遣中にも何度も問われました。

私達にとっての平和とはなんでしょうか。広島の派遣では、原爆資料館をはじめ、平和の尊さ、原爆の恐ろしさを訴えるものが沢山ありました。その中でも、私には強く印象に残っているものがあります。それは、ヒロシマ青少年平和の集いです。

ヒロシマ青少年平和の集いでは、全国各地からたくさんの中高生が集まり、意見を交わしました。友人たちと原爆について話したことはなく、私たちと同年代の人にも関わらず、私以上に原爆について深く、身近に考えている人達がいる事にとても驚きました。また、ヒロシマ青少年平和の集いにいらっしゃった被爆者の笠原さんの話も、深く心に刻まれました。笠原さんは、第一声に「あなた達は幸せです」とおっしゃいました。わかっていても、日常ではついつい忘れてしまう話です。ご飯が食べられる、学校に通える、友達と遊べる、安心して眠れる。これら全て、平和であるからこそ当たり前に出来ている事です。しかし、そんなことも忘れて私たちは日常の些細な事に不満を抱き、「小さな戦争」を起こしてしまいます。この小さな戦争を起こさない、つまりは日常の小さなすれ違いをなくすこと、時には妥協をすることが、まず一番に始めるべきことだと思いました。

ヒロシマ青少年平和の集いに参加した同じグループの人が「戦争は無くなるものじゃなくて、僕たちが無くすべきものだよね」と言っていました。本当にそうだと思います。私の思う平和とは、核兵器のない、全ての人が安心できる世の中です。核兵器が存在する限り、私たちの命は保証されません。核兵器をなくすこと、それはとても大きな課題で困難です。しかし、私は浦安市が与えてくれたこの貴重な体験を生かし、平和な世の中を作るために、自分にできることを精一杯やっていきたいと思います。

見明川中学校　３年　　山口（やまぐち）　翠（みどり）

「核放棄を願う」

私は8月4日から8月7日まで、広島へ浦安市青少年平和使節団として派遣されました。私がこの事業に参加した理由は、母が広島に住んでいたことがあり、幼い頃から原爆の話を聞いていたからと、5月の修学旅行で平和学習をし、もっと理解を深めたいと思ったからです。

市内中学校9校の計18人のメンバーとともに、広島の地でたくさんのことを学ぶことができました。

私が特に印象に残っているものは2つあり、1日目の被爆体験記朗読会と、3日目の平和記念式典です。

被爆体験記朗読会では被爆者の方々が書いた詩の朗読を聞き、実際に読みました。今まで原爆のことを知るには、あくまで客観的に説明されたものばかりでしたが、幼い子供が書いた詩や、私と同じぐらいの年齢の子供の詩などを読むことによって、当時の人達にとって原爆が、その被害がどのように目に映ったのかを知ることができました。主観的に描かれた原爆を知ることで、より一層日常の崩壊の恐ろしさや、残酷さを感じました。

3日目の朝に参加した平和記念式典では、毎年テレビで見るだけだった式典に実際に参列できることがとても嬉しかったです。実際に見る式はテレビ越しよりも遥かに規模が大きく、これが唯一の被爆国である日本の責任の大きさなのだと思いました。式の中で広島県知事が放った「核抑止論者は、核戦争が起こったときに、こんな事が起きるとは思わなかった、と肩をすくめるのか」という言葉。原爆の存在理由を考える中で知った核抑止論という考えに、守られた平和の中で過ごしている身として一部納得していた私は、核は平和を守るものではなく、壊すものであるということをもう一度強く感じました。私は、この一生に一度の経験を忘れることはないでしょう。

今起きているロシアとウクライナの戦争も、ロシアの核保持によって強く対抗できていません。壊された街。避難所の子供。地図で見る侵攻状況。テレビで見ていると戦争が「もしかしたら」ではなく「今現在」のものであると思い知らされます。この惨状の中に、どこを探しても核に守られた平和はありません。平和記念式典で捧げた1分の黙祷。この時間が、いつか核兵器廃絶を、世界恒久平和を叶えてくれることを信じて私は何年後でも黙祷を捧げます。

今、広島を訪れることができて本当に良かったと思います。一生に一度の貴重な体験、同年代との意見交流。全てが新鮮で、濃い4日間でした。

入船中学校　２年　　熊川（くまがわ）　りな

8月4日から8月7日にかけて浦安市平和使節団として広島を訪れ「平和の尊さ」や「原爆」についてたくさんの事を学びました。

私は小学校で原爆の朗読劇を見たのをきっかけに原爆や戦争について興味を持ちました。しかし原爆は怖いものというイメージがあり、詳しく調べることはありませんでした。派遣前のオリエンテーションで約14万人もの人が亡くなったことを聞き衝撃を受けました。

実際に広島を訪れ特に印象に残ったことは２つあります。一つ目は平和記念資料館の見学です。初めに見た巨大なキノコ雲の写真はとても迫力があり、当時見た人は「何が起こっているんだ」というとてつもない不安に襲われたと思います。次に見たのは人の影が映っている壁です。被爆当時この場所に本当に人がいて、本当に座っていたと思うと、恐ろしさを感じると同時に78年前と今が繋がったような不思議な感覚を覚えました。そして人の形が残るほど強い光というのはこれから私が生きていく中で決して見る事のない程のものなので本当に恐ろしいと思いました。被爆後の写真には放射線、熱線、爆風によってボロボロになった人が写っていました。それは私の想像をはるかに超えた悲惨さで思わず目を背けてしまいました。しかしこれは78年前広島で実際に起こったことで、今を生きる私たちが次の世代へと伝えていく必要があると改めて痛感しました。

二つ目は8月6日に参加した広島平和記念式典です。あの時間に数えきれない程大勢の人が78年前広島で起きたことを思い出し亡くなった方に冥福を祈っている事を感じ、「もう二度と原爆を落としてはいけない」という人々の強い意志が心の奥まで伝わってきました。また、私自身も「戦争・原爆はいけない」「平和は大切」という思いが増しました。

高齢化により原子爆弾の恐ろしさを知る人が減る中、たくさんの人が広島に訪れ家族や友人に伝えていく必要があります。私はこの4日間で今まで知らなかった多くの事を学び、体感することができました。この経験をしっかりと伝えていきたいと思います。

入船中学校　２年　　近藤（こんどう）　楓乃（かの）

「未来へつなぐ」

今回、私は浦安市平和使節団として八月四日から七日にかけて広島に派遣されました。私は今まで戦争という出来事が怖く、原爆について知ることから逃げてきました。ですが、今回広島派遣に参加したことで私の考えは大きく変わりました。たくさんの貴重な体験の中で印象に残ったものが三つあります。

一つ目は、二日目に行った平和記念資料館です。そこでは、見ることのできないような恐ろしい展示品がいくつもありました。被爆の様子がかかれた絵は今でも目に焼き付いています。ひどく焼けただれた皮膚、水を求めて歩き回る人々の姿は一生忘れることができないと思います。

二つ目は、三日目に参加した平和記念式典です。広島市の小学六年生が行った平和への誓いはとても感動しました。その中に"命をつないでくれた"という言葉がありました。当時は残された人も辛い思いをしていたため、この言葉は被爆者の方の大きな支えになったと思います。また、式典には当時日本の敵だったアメリカの方も来ていました。日本に原爆を落とした国であるアメリカの方が日本の平和を考えてくれていると思うととても嬉しくなりました。

三つ目は、三日目に体験した灯籠流しです。たくさんの灯籠が流れていく様子はとても綺麗でした。その一つ一つに平和への思いが込められていると考えると感動しました。また、一人一人願っていることは違っても全員が平和に向かって進んでいる気がして胸が熱くなりました。

以上の三つが今回の広島派遣の印象に残った体験です。これらの体験を通して、私は被爆者の方が私たちのために残してくれた辛い過去をさらに未来の世代へと伝えていかなければいけないと感じました。これは、唯一の被爆国である日本に生きる私たちにしかできないことです。そこで、家族や友達など身近な人へ今回学んだことを伝えていこうと思います。

最後になりますが、この度は平和について学ぶ貴重な機会をくださり本当にありがとうございました。

富岡中学校　２年　　小林（こばやし）　凜歩（りほ）

「伝えていく」

「私には起こらない話なのではないか。」私は広島派遣学習に行くまでは、この思いが心のどこかにありました。「戦争や原爆はあってはならない、繰り返してはいけない。」頭では分かっていても、どうしても実感がわきませんでした。しかしこの考え方を変えてくれたのが今回の広島派遣学習でした。

私は8月の4日から7日の間、広島で原爆や戦争について学びました。その中で大きく感じたことが2つあります。

1つ目は戦争の悲惨さについてです。私達は2日目に平和記念資料館を見学しました。そこには目を背けてしまうほど、悲惨で残酷なものがありました。やはり展示物を最初に見て感じたことは、怖いという感情です。しかし、怖いだけで終わらせてはいけないと思いました。こんなにも怖く、残酷な状況だからこそ真剣に向き合い、恐怖を理解するべきだと。私の中で印象に残っている展示物が実際に原爆にあった人の衣服です。それを見ていると、本当に何の予告もなく、罪のない人たちに原爆が落とされたのだと、恐怖を感じました。

2つ目は、私達が原爆や戦争を伝えていかなくてはならないという責任感です。私達は平和記念資料館の見学の後、平和記念公園内を見学しました。そこで、原爆ドームを見ました。ピースボランティアの方によると原爆ドームは当初、残そうという意見と残したくないという意見に分かれたそうです。後世に原爆のことを伝えていきたいという考えと、思い出すだけでも辛い原爆のことを思い出したくないという考えだったそうです。しかし、ここまで原爆ドームを残してくれたということは、決してこの悲劇を繰り返さないようにしてほしいという思いが大きかったからだと思います。そのため私は、ここまで残してくれた方々の思いを引き継ぎ、伝えていかなくてはならないという強い使命感を感じました。

私は今回の広島派遣学習を通し、自分の考えを改めることができたと思います。「自分には起こらない話なのではないか」という意識から「戦争や原爆は他人事ではなく自分事で、決して悲劇を繰り返してはいけない。私たちが伝えていかなければならない」という思いに変化しました。私1人ができることは小さいですが自分の周りから「平和の輪」を広めていきたいと思います。

富岡中学校　２年　　牧野（まきの）　裕之輔（ゆうのすけ）

「全身で学ぶ広島」

僕は今回の派遣事業に参加するにあたって最初は不安な気持ちでいっぱいだった。小学校の時、ボランティアの方々の朗読劇を聞いたことがあるくらいの、戦争についての知識が０に近いような僕に、戦争について深く知り、平和について考え、人に伝える。そんなことができるか分からなかったからだ。 しかし、事前学習やオリエンテーションを通し戦争や平和に対する自分なりの考えを持てるようになってくると、いつの間にか広島に行く日が楽しみになっていた。

1日目、朝から気合いが入っていた僕にとって、初めて吸う広島の空気は新鮮で改めて広島にきたことを実感させた。広島についてすぐ被爆体験記朗読会に参加した。ボランティアの方々の心のこもった朗読を「耳」できいて、そして皆で実際に「口」で朗読をしてみて被爆者一人一人の様々な思いを感じ取ることができた。

2日目の平和記念資料館では、沢山の資料を「目」で見ることで当時の光景が分かり、より鮮明に戦争の脅威を知れた。また、資料を見る際には音声ガイドを使用することでより一層被爆者の声・訴えをリアルに感じ取ることができ学びを深めることができた。

3日目には灯篭流しをした。あの日、1発の原爆で「地獄」となった広島、そして悲惨な人々を「幻想的」な景色とともに弔った。あの日見たあの綺麗な景色、そして被災者への思いは一生忘れることなく心に残るだろう。

4日間の派遣事業も終え、久しぶりに家に帰り、親に録ってもらっていた平和記念式典の映像を見た。昨年も一昨年も平和記念式典はテレビで見ていたが実際に式に参列した今年ではいつもとは違った景色に見えた。当日の蒸し暑さ、そして周りの緊張感、黙祷の時の人々の思い。その一つ一つを鮮明に思い出した。

今回、広島へと行き、1番良かったことは戦争、そして平和について全身で知れた事だ。行く前までは聞くだけであった戦争の話も目で見て、そして喋ってみて、また、触れてみて。その感覚は忘れることはない。

この貴重な経験は、周りに共有してこそ「意味」のある経験になると思う。同世代の人達、家族、友達色々な人に伝えていくことで本当に意味のある経験にこれからもしていきたい。

美浜中学校　２年　　和氣（わけ）　友陽（ともはる）

「千の鶴が翔べる世界を目指して」

まずは、今回浦安市平和学習青少年派遣事業に参加させていただき、本当にありがとうございました。ここでは実際に感じたことや僕の率直な思いについて書かせていただきます。

僕は最初に自分がどれだけ無知だったかを気付かされました。例えば、原爆の詳細やその被害など、平和の尊さを訴えていく上で知っているべきことを、自分はほとんど分かっていませんでした。ですがこの派遣、特に平和記念公園の見学や被爆体験講話などを聴き、具体的な原爆の恐ろしさや平和の尊さを再確認することができました。

次に感じたことは原爆の表面的な被害だけでなく、その後ろにある苦しみも多くの人が受けていたということです。平和記念資料館を見学したとき、絶句しました。被爆してしまったことで受けた差別や火傷が悪化しできたケロイドの痛み、水が無く放射性物質を含んだ黒い雨を飲むことしかできなかったことなど、被爆してしまった方の目には見えない痛み、そして苦しみは想像ができません。ですが考え続けなければならないと思います。そして後世に伝えていかなければなりません。

ですが、原爆の恐ろしさ以上に感じたこともありました。それは被爆してしまった方の勇気や平和への思いです。きっと思い返すだけでも苦しいであろう被爆の体験を後世のために伝えること、それはものすごく難しいことだと思います。被爆体験記朗読会では自分の思いを詩として表したものを聴きました。若い頃にかいていたからこそ表せる生々しい表現や描写を聴き、恐ろしく感じるとともに未来へ伝えようという固い意思を感じました。また、ヒロシマ青少年平和の集いでは次世代を担う多くの人の平和への思いがありました。一言で平和といっても人によって感じることが違い、視野を広げられました。そして多くの人が持っている勇気を感じることができました。

この派遣を通して自分、そして平和を見つめ直せたと思います。僕一人にできることは微々たるものですが、これから先、様々な色の鶴がこの青い空を翔べるよう、精一杯自分にできること、そしてそれ以上のことをしていきたいと思います。

美浜中学校　２年　　福富（ふくとみ）　慎吾（しんご）

「平和の尊さ　原爆の悲惨さ」

この度、浦安市の代表として青少年派遣事業に参加しました。私がこの派遣で学ぶ時に大切にしていたことは、学校の代表、広島派遣の第一期生としての自覚をもち、体験したことを家族や友達等少しでも多くの方々にしっかりと伝承していくことです。私はこの研修を通して戦争と原爆の恐ろしさを何よりも痛感しました。また、実際に広島へ訪問し様々な体験をすることにより広島の方々や被爆者の方々の平和への強い気持ちを実感しました。

私がこの貴重な体験を通して心に残ったことは三つあります。

一つ目はヒロシマ青少年平和の集いです。そこでは全国の中学生が集まり「あなたにとっての平和とは」「なぜ核兵器はあるのか」について話し合いました。みんなが自分の思いを伝え合い本当に様々な意見が出ました。この問いの答えは無いと思います。それでも、お互いの意見をしっかりと聞き理解を深め合うことが平和につながることだと思います。

二つ目は平和記念式典への参列です。そこでは、まず、日本だけではなく外国の方々も参列するという規模の大きさに驚きました。そして、これからの平和について世界中の人々で考え、思いを伝える様子にとても感激しました。７８年前に起こった悲劇を遠く離れているものだと思わず、二度と繰り返してはいけないものだと皆で感じていくことが大切だと思いました。

三つ目は千羽鶴の献納です。私はそこで、千羽鶴の圧倒的な量に驚きました。多くの人々の平和への強い気持ちが伝わり、戦争や原爆について考えている人々が大規模にいることを知り安心しました。

この広島研修は私のこれからの人生にとってもとても貴重な体験になりました。この４日間では、直接目にした戦争や原爆の悲惨さ、被爆者の辛い現実、被爆体験の伝承と平和への強い気持ち、等毎日深く考えさせられる時間でした。被爆当時から78年の今、戦争や原爆の伝承者が年々減っていく中で、その役割を私たち若者が責任を持って伝承していくことが必要だと感じました。私たち一人ひとりに出来ることは微力ですが無力ではありません。私は平和使節団の一員として、二度と過ちを繰り返さないよう後世に語り継いでいきたいです。

日の出中学校　２年　　鹿島（かしま）　奏（かなた）

「広島派遣で感じたこと」

私は、広島派遣で多くの人と場所に出会い、原爆の悲惨さ、原爆者や広島の人の思いを知ることができました。今回の派遣で多くのことを体験しましたが、特に印象に残っていることは三つあります。

一つ目は「被爆体験記朗読会」です。原爆の詩は読んだことがなかったので、興味深く、どんなものなのだろうかとドキドキしました。最初にただ目で読んだときはよくわかりませんでしたが、朗読会で、耳で聞き声に出すことで、恐ろしさや悲しみが伝わってきて、涙が止まりませんでした。大変心に残り、もっと多くの人に朗読を聞いてほしいと思いました。

二つ目はピースボランティアさんによる平和記念公園内見学です。今回一斑を案内してくださったピースボランティアさんの、核兵器廃絶の気持ちの強さに圧倒されました。私もこの人のように、原爆の悲惨さや被爆者がどんな思いをしてきたのかを、みんなの心に響くように話せるようにしたいという気持ちになりました。また、原爆ドームや平和記念公園のことを知ることもできました。そして、より、核兵器廃絶のために自分ができることをしていきたいと思うようになりました。

三つ目は「ヒロシマ青少年平和の集い」です。広島に来る前に、浦安でのオリエンテーションで意見を交換しましたが、このヒロシマ青少年平和の集いで、さらに様々な観点から、広い視野で、テーマの「あなたにとって平和とは」「なぜ核兵器はあるのか」について、意見を交換し、深く考えることができました。また、広島の中高生や、日本の各地から集まった青少年たちの熱意や真剣な姿を見て、わたしもみんなのように、広島での学びを吸収していき、一生懸命平和について考え、行動していきたいと思いました。初対面の人ばかりで緊張しましたが、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

この三つだけでなく、たくさんの学びや衝撃、感じたことがありました。少しでも多くの人に、今回の広島派遣でのことをしっかりと伝えていき、核兵器のない平和な世界を目指していきたいです。

日の出中学校　２年　　滝澤（たきざわ）　良平（りょうへい）

「平和」

僕はこの広島派遣を通して普段の日常ではなかなか関わることのできない原爆がどれだけ恐ろしいものなのか、戦争の恐ろしさ、またそれに対しての平和の尊さについて学んできました。

実際に、広島に行く前のオリェンデーションでも被爆者の方や被爆した方のご親族などのお話を聞いてそれだけでも十分恐ろしさなどが伝わってきました。

一日目の被爆体験記朗読会では、被爆者の方たちの当時書いた詩などを聞いたり、実際に読んだりしました。その詩は、たった数行だけでも原爆の恐ろしさや当時の様子などがよく書かれているものもありとても衝撃を受けました。

二日目は、平和記念資料館を初めて見学してみて、写真や音声ガイドを聞きながら回っていて、当時の様子がほんとによく書かれていたりしていてとてもつらい気持ちになりました。そのあとの、ヒロシマ青少年平和の集いでは、日本全国色々の小中高生たちと、平和の尊さや原爆のことについてたくさんお話をしていろいろな意見を聞けてとてもいい経験になりました。

三日目は、平和記念式典に参列し、原爆で被爆し亡くなった方々に向けて黙とうをしたり、平和を願えたと思います。そのあとは袋町小学校にいき、原爆が落ちて建物がどうなったかや、その時の様子が残っていました。その日の夜は灯籠流しをしてとても思い出に残る経験をしました。

四日目は、おりづるタワーにいき、そこでは、おりづるを折ったりいろいろなアートを見学しそこでもとても思い出に残る経験でした。

僕は、ニュースや動画などでしか原爆のことを知らなくて、正直派遣授業をする前まではもうちょっとましだと思ってました。でも、実際に詳しく学習すると原爆の恐ろしさを含め戦争の恐ろしさというものを体感しました。戦争はとても恐ろしいものです。僕も今回のことをいろんな人に伝承していき、その原爆恐ろしさをしらないもっともっと多くの人に伝えていければと思います。

明海中学校　２年　　石塚（いしづか）　幹人（みきと）

「平和への願い」

私は今年の夏休み浦安市青少年平和派遣事業の一員として広島に行きました。広島では平和記念式典への参加、様々な人の被爆体験を聞くなど、いろいろ体験することが出来ました。

私がこの派遣事業に参加したいと思ったきっかけは、以前アメリカに住んでいた際に太平洋戦争で使われた空母ミッドウェーを見に行き、アメリカ側からの戦争を体感しました。そこで実際に日本ではどのような被害があったのかを知りたいと思ったからです。事前学習の前までは太平洋戦争という言葉を知っている程度でしたが、実際に広島に行ってみると学校の教科書で学ぶ太平洋戦争や原爆の内容ではなく、被爆者の訴え、被爆者からの戦争と平和の話を聞くことの重要性を改めて感じました。

広島研修では平和の集いという全国から集まった小中高生の人達と話し合う機会がありました。友達と戦争や平和について話し合うことはないのでとても新鮮でした。このような集いに参加しているということで、みんな自分の意見をしっかりと持っていてクラスでの話し合いとは違い、とても刺激を受けました。

平和記念資料館を訪れた際の展示写真にはとても驚きました。人間とは思えない人々の写真や目をそむけたくなるような写真の数々が展示してありました。教科書で学ぶ戦争とは訳が違うと強く感じました。戦争は過去の終った出来事だと思っていましたが、被爆者一人一人に向き合い想像してみると戦争は終っても終らない。戦争のその時代に生きていた人々についてそれぞれに生活があり考えがあり思いがあったこと。そんなこと今まで考えたことはありませんでした。

私が出来ることは、私が実際広島に行って感じたことを同じ世代の仲間に伝えることではないかと思います。まずは家族、友人、クラスメイト、同じ中学校のみんなに僕が体験したことを伝えたいと思います。私の願いは、このような悲惨な出来事はもう起こることがない、平和な世の中が世界中に広がることです。

明海中学校　２年　　玉井（たまい）　花乃（はなの）

「広島派遣を終えて」

私は八月四日から八月七日の四日間にかけ、平和使節団の一員として実際に原爆の落とされた広島に行きました。そこでしかできない貴重な経験をさせていただきました。広島に行く前は、戦争は遠い昔の事と他人事のように思っていましたが、全くそれは間違っていて自分事として考えなくてはならないのだと、思い知らされました。この広島派遣事情で特に心に残ったことが二つあります。

一つ目は、平和記念資料館の見学です。平和記念資料館では、真っ赤になったたくさんの人が川に飛び込む絵や、放射線を浴びて髪が抜けてしまった少女の写真、被爆者が着ていたぼろぼろになった服、などの展示がたくさんありました。今までに見たことのない悲惨な光景ばかりで私は言葉が出ませんでした。

二つ目は、ヒロシマ青少年平和の集いです。ヒロシマ青少年平和の集いでは、実際に被爆された方のお話を聞きました。戦時中に声を大にして言えないその時の思いや、すべてを我慢しないといけなかった苦しい生活を知り、戦争はその人の一瞬を奪うのではなく一生を奪うのだと感じました。そのあと、各地域から集まった青少年たちと「あなたにとっての平和」、「なぜ核兵器はあるのか」という二つのことについて話し合いました。自分にはなかった意見や同じ意見を持っている人たちと話し合うことで、自分の意見をより深めることが出来ました。核兵器はなぜあるのかということに対して、自分の国を守るために核兵器を保有しているのではないかと思いました。今現状としてこういった核兵器があることで平和が保たれているという考え方があります。しかし、一生を一瞬で奪ってしまう核兵器は、決して平和を保つためのものではないと私は思います。

この広島派遣事業で自分の目や耳を使って学んだことを、まずは身近な人から自分の言葉で伝えていき、平和に暮らせていることは当たり前ではないということに一人でも多くの人に気づいてほしいと思いました。また、私ができる平和への一歩として、独りよがりな考えではなく、周りの人のことも考えて自分の発言に責任もって行動していくことが必要だと思いました。

高洲中学校　２年　　加藤（かとう）　悠真（ゆうま）

「派遣事業を通して」

私は、八月四日から八月七日にかけて、浦安市平和使節団として、広島市を訪問し、平和についてたくさんのことを学び、その尊さを知りました。

私が印象に残った活動は主に三つあります。

まず、一つ目は、平和記念資料館を見学したことです。資料を見学していた時、当時の中学生が着ていた、焼け焦げた制服がありました。私たちと同じくらいの歳で、こんなつらい経験をしたのかと思うと、胸が締め付けられました。

二つ目は、ヒロシマ青少年平和の集いに参加したことです。他の自治体の人たちとディスカッションをしたことで、平和への思いをより深めることができました。

三つ目は、平和記念式典に参列したことです。そこでは、広島市長、広島県知事、岸田首相らのお話を聞きました。とても緊張感に包まれた場でした。しかし、人々の平和への想いが、強く私の心に響きました。そして、式典の中で、特に印象に残っているのは、広島市長のお話にでてきた、ガンジーの言葉です。それは、「非暴力は人間に与えられた最大の武器であり、人間が発明した最強の武器よりも強い力をもつ」というもので、この言葉を聞いた時、私は、「暴力という概念が人間に無ければ、原爆が作られることもなかったのではないか」と、思いました。しかし、原爆は作られ、投下されました。だから、「もうこんな悲惨なことは二度と起こしてはいけない」と強く思いました。

最後に、私は、授業以外で、平和について考えたことはほとんどありませんでした。しかし、この貴重な経験を通して、「平和とは何か」「平和な世界にする為に何ができるのか」ということを、常に考えられるようになりました。最後になりますが、私が平和な世界の実現に向けて、微力ではありますが、少しでも力になれるよう勤めていきたいと思います。

高洲中学校　２年　　多田（ただ）　大翔（ひろと）

「ヒロシマでの経験」

僕は、３泊４日での広島の経験を通して、平和について、戦争についてそして人の命の大切さについてより実感する事が出来ました。

１日目は、被爆体験記朗読会に参加してその当時被爆にあってしまった人の詩を聞いたり、読んだりしてより戦争の恐ろしさや恐怖を感じました。

２日目は、平和記念公園や平和記念資料館を見学して、その当時の被害やその時の原爆の大きさなどを見て正直とても目を背けたいような写真もありました。その後、ヒロシマ青少年平和の集いで他のたくさんの学校から来ている人などと被爆体験講話を聞き、「あなたにとって平和とは」「なぜ核兵器があるのか」と言う話題をもとに話し合って、発表しいろいろな自分と違った意見が出て、そう言う視点もあるのだと共感し、深掘りすることが出来ました。

３日目は、平和記念式典に参列し、たくさんのことについて考えることができました。その後、袋町小学校で原爆による建物の被害について見ました。大和ミュージアムでは、証言映像で出てきたでかい船を模型だけれど、間近で見たりしてたくさんの事を学びました。夜には、灯籠流しをして、願いを込めて流すことが出来ました。

最終日の４日目は、おりづるタワーに行き、つるを折って、壁に落とす事が出来ました。

平和の集いでのたくさんの発表でも、自分の感じた事や、体験して来た事について、原稿を作ったり家で練習したりして、自分の想いを伝えることが出来ました。

最後になりましたが、僕はこの広島での貴重な経験を通して、原爆を二度と繰り返さないようにする為に、自分はどうすればよいのかについて深めて、たくさんの授業に関連づけて行きたいなと思います。それと、広島の原爆の被害について、家族や友達はもちろんのこと、学校全体での発表や、様々な機会で継承していきたいと思います。

この事を通して、僕は平和を尊重し、大切にしていく事を誓います。

貴重な体験をさせてくれて本当にありがとございました。

非核平和都市宣言

真の恒久平和は人類共通の願いである。しかしながら、核軍備の拡張は依然として続けられ、世界平和に深刻な脅威をもたらしていることは、全人類のひとしく憂えるところである。

わが国は、世界唯一の核被爆国として、また平和憲法の精神からも、再びあの広島・長崎の惨禍を絶対に繰り返させてはならない。

私たち浦安市民は、日本国憲法に掲げられた恒久平和主義の理念のもとで“緑あふれる海浜都市”づくりを進めており、その実現もまた平和なくしてはあり得ない。

私たち浦安市民は、被爆40周年の節目にあたるこの機会に、非核三原則が完全に実施されることを願いつつ、すべての核兵器保有国及び将来核兵器を所有しようとする国に対し核兵器の完全禁止と廃絶を希求し、世界の恒久平和確立のため、ここに「非核平和都市」となることを宣言する。

昭和60年3月29日

千葉県浦安市